

公益社団法人 モバイル・ホスピタル・インターナショナル 救命艇による患者搬送訓練
(2021年5月26日実施)

【訓練概要】

- ・消防からの要請に基づき、救命艇が出港し、熱中症患者を乗船させて寄港。
- ・帰港後、熱中症患者を車いすに乗せて、昭和大学江東豊洲病院へ搬送。



多羅尾東京都副知事



山崎江東区長



砂田MHI理事長



患者を救命艇に乗せて帰港



患者を車いすで病院に搬送

1. オリンピック・パラリンピック大会期間中の救命艇の活用について

- ・(公社)モバイル・ホスピタル・インターナショナル(MHI、理事長:砂田向吉氏)は、オリ・パラ時の昭和大学江東豊洲病院への海上交通ルートによる救急救命輸送を計画し、救命艇を確保したが、停泊場所の確保が課題であった。
- ・MHIは江東区が管理する豊洲の防災船着場の利用を希望していたが、江東区によると、オリ・パラ期間中は警視庁・海保が使用予定のため、都は代替案として辰巳地区の棧橋利用を提案し、MHIも承諾。MHIが希望する9月までの係留を許可。
- ・また、江東区の協力もあり、救急搬送時には、江東区が管理する豊洲の防災船着場が利用可能となった。
- ・5月26日(水)に救命艇による同病院への患者搬送の公開訓練が実施された。



救命艇

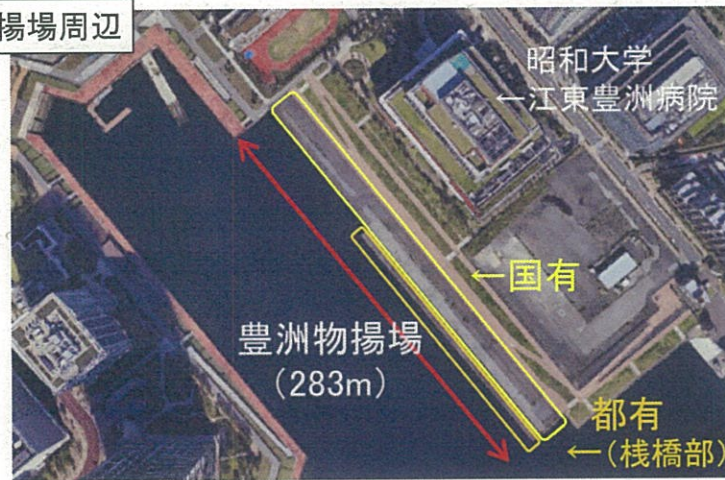


- ・定員:10名
 - ・サイズ:25ft
 - ・トン数:2.4t
- ※プレジャーボートに対し、救急搬送に必要な艀装を実施

2. 豊洲物揚場の再開発構想について

- ・MHIは都に対し、豊洲物揚場の再開発について意見を聴く場を要望していた。
- ・他方、物揚場及びその周辺の再開発については、都・江東区・民間を含め、基本的なコンセンサスを図っていく段階。
- ・MHIの意見を聴くため、5月28日(金)に、MHI、都港湾局、関東地方整備局の3者で意見交換を開催予定。

物揚場周辺



港湾計画図



物揚場の現状

- 係船柱、防舷材、車止め、はしご等の劣化が著しく、係留のためには補修が必要。
- このため、ふ頭用地背後にフェンスを設置し「係留禁止」としており、現在は不使用。

